

お客様用

余剰買取向け

**YRSWHB (固定回線用)**  
**YRS3GB (3G回線セット)**  
**エコめがね**  
**RS 余剰 10年プラン**

〈パソコン接続タイプ〉

[太陽光発電 遠隔モニタリングサービス]

## 取扱説明書 Ver2.0

この取扱説明書は、  
RS 余剰 10年プラン (パソコン接続タイプ/固定回線用)  
RS 余剰 10年プラン (パソコン接続タイプ/3G回線セット)  
の取扱方法について、説明しています。

はじめにこの取扱説明書をよくお読みになり、  
十分ご理解のうえ、正しく安全にご使用ください。

# 目次

---

安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意	3
-----------------------	---

本製品について	8
---------	---

## 取扱方法

表示部の見方	14
--------	----

電波強度を確認する	15
-----------	----

通信確認を実施する	16
-----------	----

パワーコンディショナを操作する	18
-----------------	----

瞬時値確認を実施する	21
------------	----

有線接続の設定	22
---------	----

無線接続の設定(固定回線用)	24
----------------	----


## その他


メニュー遷移	25
--------	----

エラーコード一覧	28
----------	----

# 安全上のご注意 / 安全上の要点 / 使用上の注意





誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害を、次のように区分して説明しています。

 <b>警告</b>	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり、万一の場合には重傷や死亡に至るおそれがあります。
---	---








 <b>注意</b>	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、ときに軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害※を受けるおそれがあります。
---	--

※ 物的損害とは、製品の故障、誤動作などでお客様の設備や財物に損害を与えることを示します。

お守りいただく内容を次の図記号で説明します。



	●一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告
	●分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	●一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示
	●感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告

## ●計測ユニット関連 (P.3～6)








 <b>警告</b>	
	計測ユニットは、 <b>幼児の手の届かないところに設置して下さい。</b> 感電による傷害が起こる可能性があります。
	計測ユニットに <b>発火物を近づけたり、可燃性ガスを含むスプレーを吹き付けしないで下さい。</b> 発煙・発火・火災・爆発のおそれがあります。
	計測ユニットに <b>ぬれた手で触れないでください。</b> 感電による傷害や機器故障のおそれがあります。
	計測ユニットを <b>分解・改造しないでください。</b> 感電による傷害や発煙・発火・火災が起こるおそれがあります。電波法でも禁止されています。
	計測ユニットを配線する際は、計測ユニットの電源（計測ユニット用ブレーカ）を <b>必ずオフにして</b> ください。 感電による傷害が起こるおそれがあります。
	計測ユニットの電圧検知用ケーブルには、 <b>Φ2.0 銅単線 (VVF) を使用してください。</b> 焼損のおそれがあります。

## 安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

### 警告(つづき)

	計測ユニットの設置時には計測ユニット用の個別ブレーカ（計測ユニット用ブレーカ）を使用してください。 計測ユニットの故障が発生した場合、焼損のおそれがあります。
	電源を入れる前に、接続が正しいことを確認してください。 誤接続があると、正しく計測ができない場合や、計測ユニット、スマートメータ等が破損するおそれがあります。

### 注意

	計測ユニットの設置は、電気設備技術基準、内線規程に従い、第1種または第2種電気工士が行ってください。 感電による傷害が起こるおそれがあります。
	薄い木材や木材でない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、市販のボードアンカーを使って、壁面にしっかりと固定してください。 落下により怪我をするおそれがあります。
	強酸、有機溶剤、火の近くなどの環境下では使用しないでください。 故障の原因となるおそれがあります。
	計測ユニットを、次のような場所には設置しないでください。 焼損のおそれがあります。 ● 野外や軒下等の雨水があたる場所 ● 洗面所、脱衣所、作業場、調理場などの湯気の当たる場所、もしくは湿度が25 ~ 85%RH以外のところ
	計測ユニットを振動、衝撃の影響が大きいところや、落下するおそれがあるところに設置しないでください。 落下により怪我をするおそれがあります。
	ノックアウト加工をする際は、突起やバリをやすりなどで確実に除去してください。 配線を傷つけたり、けがの原因となります。
	計測ユニットの端子ねじは、 $1.4 \pm 0.2N \cdot m$ で確実に締め付けてください。 接触不良による焼損、および、過剰トルクによる端子台破損のおそれがあります。

# 安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

## 安全上の要点

以下に示す項目は、安全を確保する上で必要なことですので、必ずお守りください。

- 計測ユニットを廃棄する場合は、地方自治体の条例または規則等に従ってください。
- 計測ユニットは、状態表示ランプを下方向にして垂直な壁にねじで確実に固定してください。
- 計測ユニットの端子台への配線は、同梱の圧着端子を使用してください。
- 計測ユニットに発煙、発熱、その他の異常を感じた場合は、計測ユニット用ブレーカをオフにしてください。
- 主幹用電流センサの定格は100Aです。20kW (100A × 100V × 2) まで計測できます。
- 外部発電機用電流センサの定格は100Aです。20kW (100A × 100V × 2) まで計測できます。
- 計測ユニットを押入や階段下など、通風を妨げるような場所に設置しないでください。
- 振動、衝撃の影響が大きいところには保管(輸送を含む)しないでください。

## 使用上の注意

- 計測ユニットは静電気によって故障、破損することがあります。計測ユニットに触れる前に身近な金属に手を触れるなどして身体の静電気を取り除くようにしてください。
- 計測ユニット及び主幹用電流センサは計量法に定める指定機関が行う検定に合格した特定計量器ではありませんので、電力量の証明には使用できません。目安としてご利用ください。  
なお、発電量などの数値の表示精度はパワーコンディショナ(PCS)および主幹用電流センサの性能に依存します。
- 出力制御設定を行った後、計測ユニットとパワーコンディショナの接続が正しく行われていないとパワーコンディショナの発電が停止します。出力制御設定について、詳しくは施工・取扱説明書を参照ください。
- 計測ユニットは以下のパワーコンディショナ以外に接続しないでください。

最大接続台数は6台になります。(ただし同一シリーズに限る)

<オムロン製※>

- KP□K / KP□K2 シリーズ
- KP□M / KP□M2 シリーズ  
(KP□M\* \*KCシリーズは対象外になります。)
- KP□R シリーズ
- KPK-A□ シリーズ

※出力制御対応パワーコンディショナは、型式末尾に「-A」のある形式となります。

(KP□M-SJ4、KP□M2については、型式末尾に「-A」がないものも出力制御に対応しています)

- ケーブルを強く引っ張らないでください。
- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは正しく接続してください。
- 複数台接続時のPCS間通信ケーブルは正しく接続してください。
- パワーコンディショナを複数台接続する場合は、同一シリーズのみで接続してください。
- 他機種のメンテナンスツールを使用しないでください。計測ユニットが故障するおそれがあります。
- 通信ケーブル(別売)は指定のものをご使用ください。
- 計測ユニットの落下により稀に怪我をする恐れがあります。計測ユニットを振動、衝撃の影響が大きいところに取付けないで下さい。  
また、木材ではない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、必要により市販のボードアンカーにより、しっかりと壁掛け用取付板を壁面に固定してください。
- 電流センサは、落としたり衝撃を加えたりすると正確な計測ができなくなります。
- 電流センサの向き、設置場所を誤ると正確な計測ができません。
- 計測ユニットは無線による通信を行います。無線通信による影響が発生する場合は、影響を与えている可能性のある機器からできるだけ離して設置し、影響が無くなった事を確認の上、計測ユニットを使用してください。
- 計測ユニットは2.4GHz無線による通信を行います。電子レンジ、ワイヤレスAV機器など、強力な電波が発生する装置からできるだけ離して設置してください。
- 計測ユニット電波干渉の事例が発生した場合は、計測ユニットの電源(計測ユニット用ブレーカ)をオフにし、お買い上げの販売店に連絡してください。
- 初期設定時、使用環境に合わせて、正しく種別設定(買取モード(余剰買取)、電流センサの有無など)を行ってください。設定を間違えると、必要なデータが蓄積できなくなることがあります。

# 安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

## 電波干渉についての注意

計測ユニットの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器の他、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・ 計測ユニットを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 万一、計測ユニットから移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- ・ その他、計測ユニットから移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書裏表紙に記載のお問い合わせ先にご相談ください。

### ■製品の表記の説明



- ①「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備を意味します。
- ②「DS/OF」 : DS-SS 方式およびOFDM 方式の変調方式が可能であることを意味します。
- ③「4」 : 想定される干渉距離が40m以下であることを意味します。
- ④「■ ■ ■」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

## 無線 LAN セキュリティについての注意

無線接続では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線LANルータ間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる  
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される  
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線LANルータは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

## 安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

### ●製品全般(計測ユニット、3G ルータ、Wi-Fi ルータ)の使用上の注意

#### 使用上の注意

- 本製品を次のような場所に設置しないでください。
  - 直射日光の当たるところ
  - 虫や小動物が多いところ
  - 温度変化が激しいところ
  - 潮風にさらされるところ
  - 風雨にさらされるところ
  - 屋外や軒下等の雨水があたるところ
  - 水を浴びる、水の侵入があるところ
  - 氷結するところ
  - 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有毒ガスのあるところ
  - 浴室、脱衣所、台所等の水蒸気、油蒸気、結露のあるところ
  - 使用温度範囲以外になるところ  
計測ユニットの使用温度範囲：-20 ~ +50 °C  
Wi-Fiルータの使用温度範囲：0 ~ +40 °C  
3Gルータの使用温度範囲：-20 ~ +60 °C
  - 使用湿度範囲以外になるところ  
計測ユニットの使用湿度範囲：25 ~ 95%RH  
Wi-Fiルータの使用湿度範囲：10 ~ 85%RH  
3Gルータの使用湿度範囲：80%RH以下
  - 標高2000mを超えるところ
  - 塵埃(粉塵、砂塵、綿ホコリ、金属粉、オガ屑、ワラ屑等)の多いところ
  - 金属・金具類に覆われた場所、金属の壁への設置、金属の机の上、金属製品のそば、電子レンジおよび無線に影響を与える機器(電話機・FAX・パソコン・パソコン周辺機器・テレビ・IH製品)の近く
- 本製品を保管する場合は、以下の温湿度範囲で保管してください。

#### 保管温度範囲

計測ユニットの保管温度：-20 ~ +50°C  
3Gルータの保管温度：-40 ~ +80°C

#### 保管湿度範囲

計測ユニットの保管湿度：25 ~ 95%RH  
3Gルータの保管湿度：85%RH以下(結露なきこと、電氣的及び機械的なストレスが無いこと)

# 本製品について

## ●仕様

《計測ユニット》

項目	仕様
■ 型式	KP-MU1S-M-NE
■ 使用周囲温度	-20 ~ +50 °C (氷結なきこと)
■ 保存温度	-20 ~ +50 °C (氷結なきこと)
■ 使用周囲湿度	相対湿度 25 ~ 95 % (結露なきこと)
■ 保存湿度	相対湿度 25 ~ 95 % (結露なきこと)
■ 接続可能パワコン	<p>&lt;オムロン製&gt; KP□K / KP□K2 シリーズ KP□M / KP□M2 シリーズ (KP□M**KCシリーズは対象外になります。) KP□R シリーズ KPK-A□ シリーズ</p> <p>出力制御対応パワーコンディショナは、型式末尾に「-A」のある形式となります。(KP□M-SJ4、KP□M2については、型式末尾に「-A」がないものも出力制御に対応しています)</p>
■ 接続可能パワコン台数	最大接続台数：6台 (同一シリーズに限る)
■ 電源	単相3線 AC100V
■ 消費電力 [W]	最大 6.5W
■ 入力容量 [VA]	最大 11VA
■ 質量	約 800g
■ 外形寸法	幅 130 mm × 奥行 60 mm × 高さ 260 mm



## 本製品について(つづき)

---

### 《Wi-Fi ルータ》

項目	仕様
■ 型式	WSR-300HP
■ 使用周囲温度	0 ~ +40 °C (ただし結露または氷結しないこと)
■ 使用周囲湿度	相対湿度 10 ~ 85 %
■ 電源	単相 2 線 AC100V
■ 消費電力 [W]	最大 5.8W
■ 質量	約 232g
■ 外形寸法	幅 31 × 奥行 140 × 高さ 140mm

### 《3G ルータ》

項目	仕様
■ 型式	uM210R type-M
■ 使用周囲温度	-20 ~ +60 °C
■ 保存温度	-40 ~ +80 °C
■ 使用周囲湿度	相対湿度 80 %以下(結露なきこと)
■ 保存湿度	相対湿度 85 %以下 (結露なきこと、電気的および機械的なストレスが無いこと)
■ 電源	単相 2 線 AC100V
■ 消費電力 [W]	最大 10W
■ 入力容量 [VA]	最大 12.5VA
■ 質量	約 550g(本体のみ)
■ 外形寸法	幅 115 mm × 奥行 100 mm × 高さ 36 mm (本体のみ ※突起部除く)

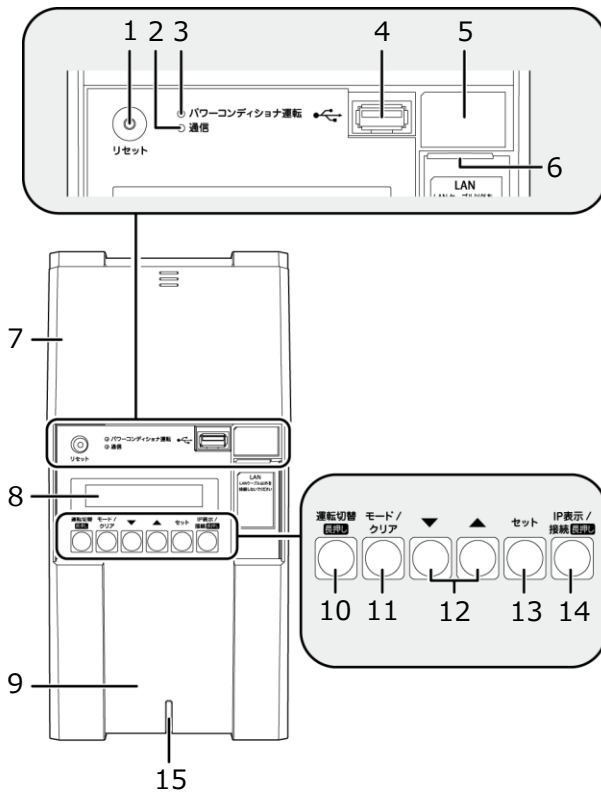
# 本製品について(つづき)

## ●各機器の詳細

### ■計測ユニット(EIG センサ)

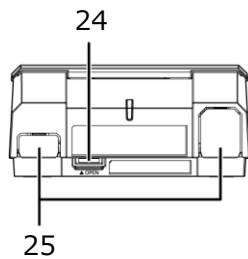
#### ■正面図

スライドカバーを開けた状態



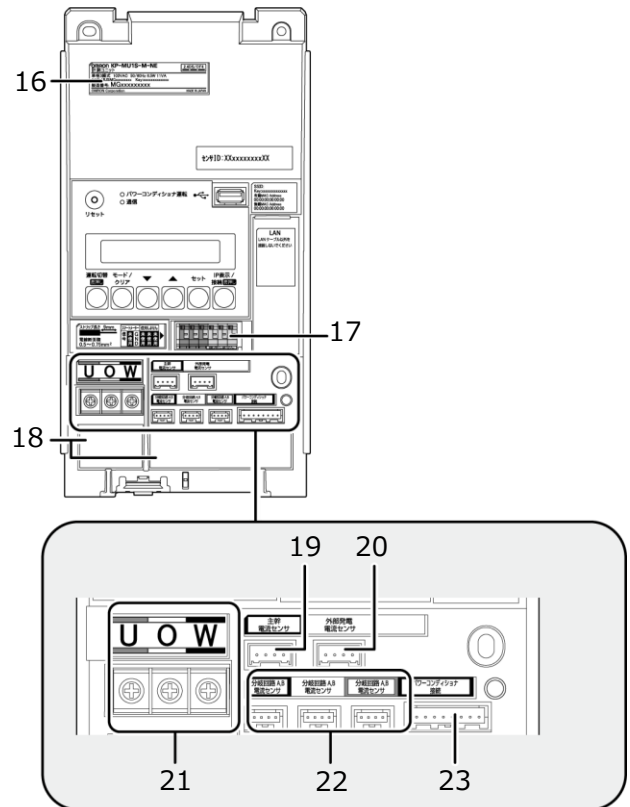
#### ■底面図

フロントカバーを取り付けた状態



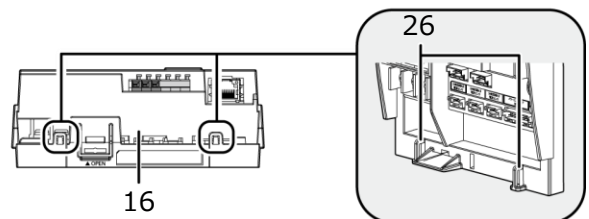
#### ■正面図

フロントカバーを取り外した状態



#### ■底面図

フロントカバーを取り外した状態



# 本製品について(つづき)

## 1 リセットスイッチ

計測ユニットを再起動します。

## 2 通信ランプ

計測ユニットの無線通信状態を表示します。

- 橙色点灯：無線LAN ルータと無線通信中
- 橙色点滅：無線LAN ルータと正しく無線通信できていない状態
- 緑色点灯：有線LAN接続状態

## 3 パワーコンディショナ運転ランプ

パワーコンディショナの運転状態を表示します。

- 緑色点灯：連系運転中
- 橙色点灯：自立運転中
- 赤色点灯：運転停止中
- 消灯：パワーコンディショナが無応答時

- パワーコンディショナを複数台設置し、各パワーコンディショナの運転状態が異なる場合は、以下の優先順位で表示します。

- ①連系運転中（緑色点灯）
- ②自立運転中（橙色点灯）
- ③運転停止中（赤色点灯）

例えば、パワーコンディショナ3台を設置し、1台が連系運転中、2台が運転停止中の場合は、緑色点灯します。

## 4 USBコネクタ (Type A)

使用しません。

## 5 SSID、パスワード、有線MACアドレス、無線MACアドレス

機器固有の英数字が記載されています。

## 6 LANポート

有線接続の設定を行う場合(P.22)に、ルータとLANケーブルで接続します。

## 7 スライドカバー

## 8 表示部

発電電力やエラーコード、接続されているパワーコンディショナの運転状態などを表示します。

## 9 フロントカバー

## 10 運転切替ボタン

接続されているパワーコンディショナの運転状態を切り替えます。

## 11 モード/ クリアボタン

表示部の表示内容の切り替えとキャンセル操作に使用します。

## 12 ▼ / ▲ボタン

表示中の項目の選択に使用します。

## 13 セットボタン

表示中の項目の決定に使用します。

## 14 IP表示/ 接続ボタン

短押し：計測ユニットのIPアドレスを表示します。

長押し：かんたん無線接続機能を動作させます。

## 15 状態表示ランプ

計測ユニットの動作状態を表示します。

- 緑色点灯：通常動作中
- 緑色点滅：初期設定完了前
- 橙色点滅：停電中
- 赤色点灯：自動復旧が不可能な異常発生中
- 赤色点滅：自動復旧の可能性のある異常発生中
- 消灯：パワーコンディショナが夜間発電停止状態かつ、無操作時

## 16 製造番号

機器固有の英数字が記載されています。

## 17 バルス端子

使用しません。

## 18 配線口

配線時に使用します。

## 19 主幹用電流センサケーブル接続コネクタ

主幹用電流センサケーブルを接続するコネクタです。

## 20 外部発電機用電流センサケーブル接続コネクタ

外部発電機用電流センサケーブルを接続するコネクタです。

## 21 端子台[U/O/W]

電圧検知用ケーブルを接続します。

## 22 分岐回路A,B 電流センサケーブル接続コネクタ

使用しません。

## 23 パワコン・計測ユニット間通信ケーブル接続コネクタ

パワーコンディショナと計測ユニット間で通信を行うためのパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを接続するコネクタです。

## 24 フロントカバー取り外しボタン

## 25 ノックアウトホール

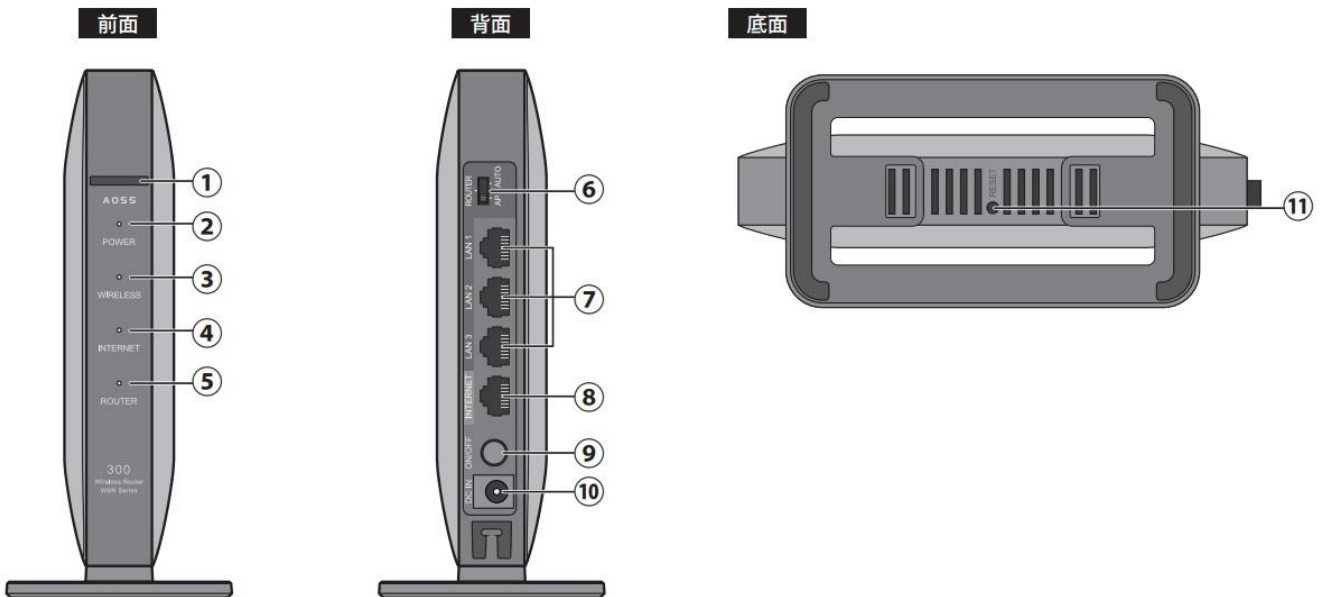
露出配線の場合に使用します。

## 26 結束バンド差し込み口

露出配線の場合に、配線ケーブルを同梱の結束バンドで固定します。

# 本製品について(つづき)

## ■Wi-Fi ルータ



### 1 AOSSボタン

Wi-Fiルータの電源を入れた状態で、ワイヤレスランプが点滅するまで（約1秒間）ボタンを押すと、Wi-FiルータがAOSS/WPS待ち受け状態になります。

### 2 POWERランプ

点灯（緑）：電源がオンの状態、通常状態  
点滅（緑）：システムが起動中  
消灯：電源がオフの状態  
点滅（橙）：エラー発生時

### 3 WIRELESSランプ

点灯（緑）：無線LAN動作時/無線LAN通信時  
2回点滅（緑）：AOSS/WPS待ち受け状態  
連続点滅（緑）：AOSS/WPS失敗  
消灯：無線LAN無効時

### 4 INTERNETランプ

点灯（緑）：インターネット接続が可能な状態  
消灯：インターネットに未接続の状態

### 5 ROUTERランプ

点灯（緑）：ルータ（ルータ機能オン）として動作中  
消灯：ブリッジ（ルータ機能オフ）として動作中

### 6 モードスイッチ

AUTO：ルータ機能のオン/オフを自動設定します。  
ROUTER：ルータ（ルータ機能オン）として動作します。  
AP：ブリッジ（ルータ機能オフ）として動作します。  
※出荷時は「AP」に設定しています。

### 7 LAN端子

パソコンやハブなどを接続します。  
1000/100/10Mbpsに対応しています。

### 8 INTERNET端子

プロバイダーから提供された機器（モデムなど）を接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

### 9 電源ボタン

Wi-Fiルータの電源のオン/オフを行うボタンです。電源をオフにしたときは、内部処理を行うため、実際に電源が切れるまで10秒程度かかります。

### 10 DCコネクタ

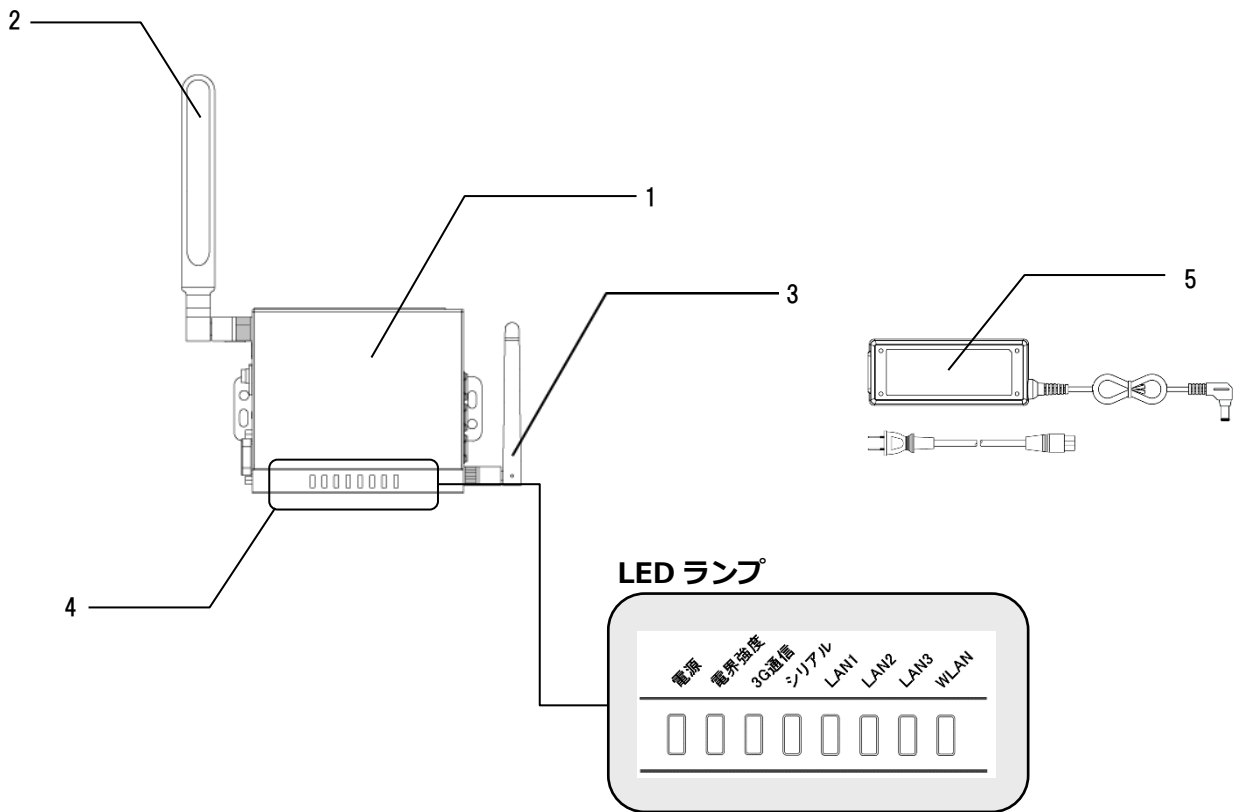
付属のACアダプタを接続します。

### 11 RESETボタン

電源を入れた状態で、POWERランプが緑色に点滅するまで（約5秒間）ボタンを押し続けると、設定が出荷時の状態に戻ります。

# 本製品について(つづき)

## ■3G ルータ



### 1 3Gルータ本体

データ通信を行う装置です。

### 2 3Gアンテナ

3G網とデータ通信を行うアンテナです。

### 3 Wi-Fiアンテナ

計測ユニットとデータ通信を行うアンテナです。

### 4 LEDランプ

3Gルータの動作状況を表示します。

#### ●電源

- 緑色点滅：電源ON
- 消灯：電源OFF

#### ●電界強度

- 緑色点灯：電界レベル5（強）
- 緑色点滅：電界レベル4
- 橙色点灯：電界レベル3
- 橙色点滅：電界レベル2
- 赤色点灯：電界レベル1
- 赤色点滅：電界レベル0（弱）

#### ●3G通信

- 赤色点灯：圏外
- 橙色点滅：メンテナンス中
- 橙色点灯：ソフトウェア書込中
- 赤色点滅：装置内異常
- 緑色点滅：発信中／着信中
- 緑色点灯：通信中
- 消灯：通信なし

#### ●シリアル

- 消灯(使用しません)

●LAN1、LAN2、LAN3 - 緑色点滅：送信または受信

- 緑色点灯：リンクアップ（送受信なし）
- 消灯：リンクダウン

#### ●WLAN

- 緑色点滅：送信または受信
- 緑色点灯：WLAN有効（送受信なし）
- 消灯：WLAN無効

### 5 ACアダプタ

3GルータのACアダプタです。

## 取扱方法

# 表示部の見方

計測ユニットの表示部で現在の発電電力、パワーコンディショナの運転モード、エラーコードを確認できます。

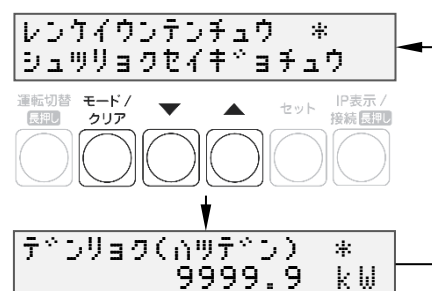
## 1 計測ユニットのスライドカバーを矢印の方向にスライドさせる

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。
- 表示部の確認や操作が終わりましたら、スライドカバーは閉めてください。



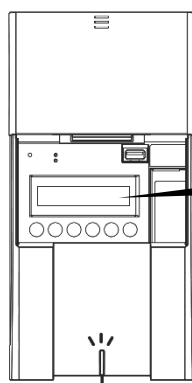
## 2 ▼ / ▲ボタンを押して表示を切り替えます。

- ボタンを押すごとに、右記のようにメイン画面が表示されます。
- 出力制御中は、メイン画面に制御中であることが表示されます。



▲/▼ボタンで切り替えます。

- 異常が発生している場合、下記のように表示部でエラーを確認できます。



状態表示ランプ

エラー ( 1 / 3 )  
コート : E4-3.0 (01)

現在発生中のエラー件数とその何件目かを表示

エラーコード

パワコン No.

※ 計測ユニットの場合は ( -- )

スライドカバーを開けると、表示部に現在発生中のエラーが表示されています。

- 現在発生中のエラーが複数表示されている場合は、▼ / ▲ボタンで表示を切り替えることができます。(最大25件まで)
- モード/クリアボタンを押すと、通常メイン画面が表示されます。もう一度表示するには、モード/クリアボタンを2秒以上押ししてください。
- エラーコードの示すエラー内容については「エラーコード一覧」(P.28)で確認してください。

- 計測ユニットの状態表示ランプでも異常をお知らせします。

- 緑色点灯 : 通常動作中
- 緑色点滅 : 初期設定完了前
- 橙色点滅 : 停電中
- 赤色点灯 : 自動復旧が不可能な異常発生中
- 赤色点滅 : 自動復旧の可能性のある異常発生中
- 消灯 : 全パワーコンディショナが夜間発電停止状態かつ、無操作時

# 電波強度を確認する

## ●電波強度を確認する

計測ユニットとルータ間での無線通信の電波強度レベルを確認できます。  
有線接続の設定(P.22)を行った場合は、電波強度レベルは確認できません。

### 1 計測ユニットの表示部に「レンジウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、IP 表示/接続ボタンを押す

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。



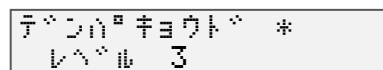
### 2 「ムセン IP アドレス \*」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「デンパキョウド \*」を表示させます

- 実際のアドレスは機器により異なります。
- 有線接続の設定を行った場合、「デンパキョウド \*」の項目は表示されません。



### 3 電波強度レベルを確認する

- レベルが 1 と表示される際には、レベルが 2 以上になるまでルータの距離を近づけてください。  
電波強度レベルが改善されない場合は、計測ユニットとルータ間を LAN ケーブルで接続してください。(P.22)



### 4 モード/ クリアボタンを押す



# 通信確認を実施する

計測ユニットとサーバとの疎通を確認できます。

- 実施する前に、ルータが起動していることを確認してください。

**1** 計測ユニットの表示部が消灯している場合は  
いずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、  
モード/クリアボタンを押す



**2** 「ユーザセッテイ \*」が表示されていることを  
確認し、▼ / ▲ボタンで  
「システムセッテイ 》」を選び、  
セットボタンを押す



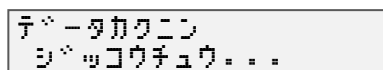
**3** ▼ / ▲ボタンで「ジョウホウサーバカクニン」  
を選び、セットボタンを押す



**4** 「ジョウホウサーバセツゾク アリ」の表示で、  
セットボタンを押す



**5** ▼ / ▲ボタンで「データカクニン」を選び、  
セットボタンを押す





## 通信確認を実施する(つづき)

### 6 通信結果が OK であることを確認する

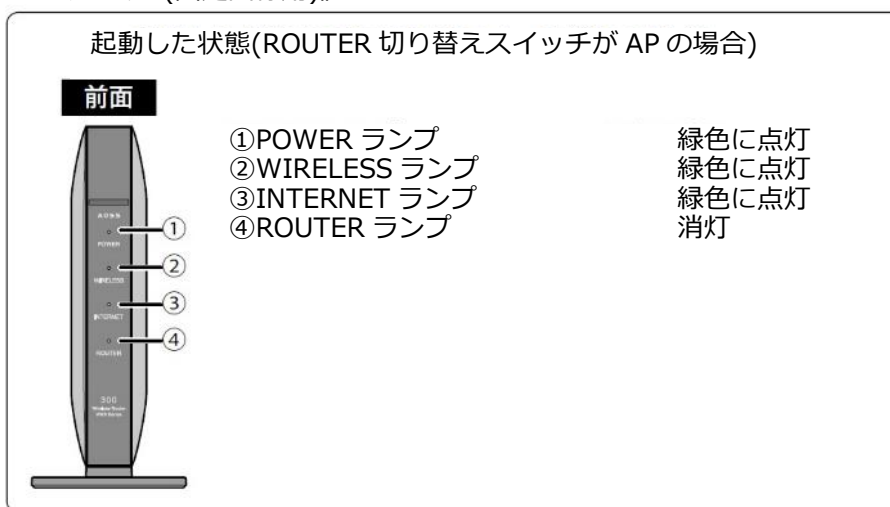
- モード/クリアボタンを 5 回押して、メイン画面に戻って終了してください。



- データカクニン NG ツウシンエラーと表示された場合  
インターネットへ接続できておりません。  
Wi-Fi ルータもしくは 3G ルータの LED ランプを確認し、動作状態を確認してください。



《Wi-Fi ルータ (固定回線用)》



《3G ルータ (3G 回線セット)》

電波状況に応じて、電界強度ランプの表示が変化します。  
以下を参考に電界強度ランプを確認してください。

名称	状態	表示
電界強度	電界レベル5 (強)	緑色点灯
	電界レベル4	緑色点滅
	電界レベル3	橙色点灯
	電界レベル2	橙色点滅
	電界レベル1	赤色点灯
	電界レベル0 (弱)	赤色点滅

※電界レベル 1 以下の場合、安定して通信を行えません。  
3G ルータの設置位置を変更してください。

#### <原因>

- ルータの起動が完了していない可能性があります。
- ルータに異常が発生している可能性があります。
- 3G 電波エリアの圏外である可能性があります。(3G 回線セットの場合)

# パワーコンディショナを操作する

接続しているパワーコンディショナがKP□K / KP□K2シリーズ以外の場合、計測ユニットからパワーコンディショナを操作して、連系運転/自立運転/運転停止の切り替えができます。

- パワーコンディショナを複数台設置している場合は、全台一括操作となります。個別に操作することはできません。

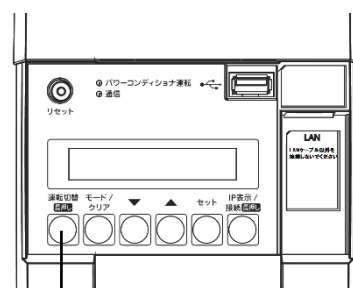
お使いのパワーコンディショナがKP□Kシリーズの場合、計測ユニットからパワーコンディショナの操作はできません。パワーコンディショナから操作してください。

## ● 通常時の使い方(連系運転)

通常時(連系運転)の場合、計測ユニットでの操作は不要です。

### ■ パワーコンディショナの運転を停止させるには 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押す

- パワーコンディショナ運転ランプが赤色に点灯し、表示部に「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナが停止します。
- 停止操作をすると、パワーコンディショナは停止状態を保つため、自動的に起動しません。(例えば、停止操作後に日が暮れた場合、翌朝もパワーコンディショナは停止状態を継続します。)
- 運転を再開させるためには、運転開始操作をしてください。



運転切替ボタン

### ■ パワーコンディショナの運転を再開させるには 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押す

- パワーコンディショナ運転ランプが緑色に点灯し、表示部に「レンケイウンテンチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が再開します。

## お知らせ

- 夜間など太陽光が発電しないときは、計測ユニットでのパワーコンディショナの運転停止/再開の操作はできません。

## ● 停電時の使い方(自立運転)

日中(太陽光発電中)に停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、計測ユニットの状態表示ランプが橙色に点滅します。下記の操作をして、自立運転に切り替えると、太陽光発電された電力を停電用コンセントから使用することができます。

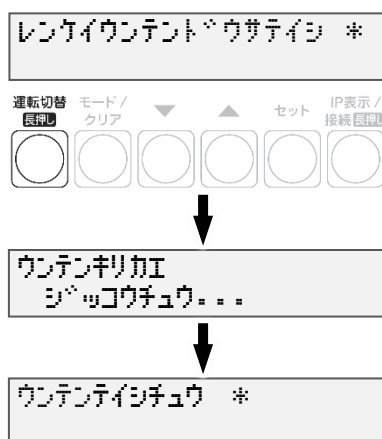
- 夜間など太陽電池が発電していないときは、計測ユニットのすべての表示が消灯し、自立運転への切り替えはできません。

### 1 太陽光発電用ブレーカをオフにする



### 2 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける

- パワーコンディショナの運転が停止します。



## パワーコンディショナを操作する(つづき)

### 3 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

- 自立運転を開始すると、パワーコンディショナ運転ランプが橙色に点灯し、表示部に「ジリツウンテンチュウ」と表示されます。



### 4 停電用コンセントに、使用したい機器を接続する

- 突然停止しても安全性に問題がない機器を接続してください。下記の機器は停電用コンセントに接続しないでください。
  - すべての医療機器
  - 灯油やガスを用いる冷暖房機器
  - パソコン、ワープロなどの情報機器
  - その他、途中で止まると生命や財産に損害を及ぼす機器
- 接続する機器の合計消費電力は、1500VA 以下 (AC 100V で最大15A 以下) になるようにしてください。
- ▼ / ▲ボタンを押すと、表示部が電力表示に切り替わり、停電用コンセントに接続した機器の消費電力の値が表示されます。(何も接続していない場合は“0.0”が表示されます)

#### ■ 自立運転が停止してしまったら

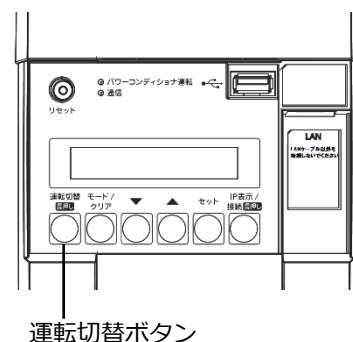
パワーコンディショナは、天候の変化によって太陽電池の発電電力が低下したときや日の入り時に、自動的に自立運転を停止します。自立運転を再開させる場合は、計測ユニットの状態表示ランプが橙色に点滅してから、「停電時の使い方 (自立運転)」(P.18~19) の手順 2~3 を行ってください。

- 夜間など太陽電池が発電していないときは、計測ユニットのすべての表示が消灯し、自立運転を再開させることはできません。

#### お知らせ

- 自立運転を停止させるには、計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けてください。もう一度運転切替ボタンを2秒以上押し続けると、自立運転を再開します。
- 掃除機や冷蔵庫など、電流が急激に流れる機器を使用すると、保護機能が働いてパワーコンディショナが停止する場合があります。保護機能が働いて自立運転が停止した場合は、以下の手順で再開してください。

- 1 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける
  - パワーコンディショナが運転を停止します。
- 2 停電用コンセントに接続している機器を減らす
- 3 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける
  - パワーコンディショナが運転を再開します。



# パワーコンディショナを操作する(つづき)

## ● 復電時の操作(自立運転 → 連系運転)

停電時に自立運転に切り替えた場合、復電後は連系運転に切り替える必要があります。

- 連系運転に切り替える際、停電用コンセントに接続している機器は外してください。
- 夜間に復電した場合は、手順2のみを行ってください。翌朝、連系運転モードで運転を開始します。
- 計測ユニットの表示部に「ジリツウンテンチュウ」と表示されている時に、操作を行ってください。

### 1 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

- パワーコンディショナの運転が停止します。

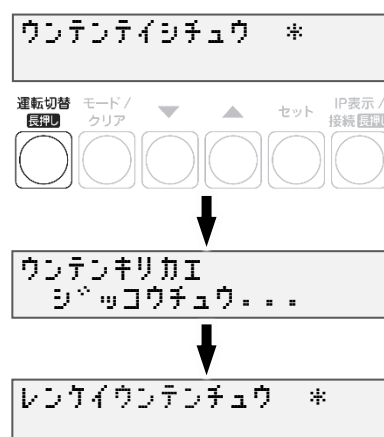


### 2 太陽光ブレーカをオンにする



### 3 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

- 連系運転を開始すると、パワーコンディショナ運転ランプが緑色点灯し、表示部に「レンケイウンテンチュウ」と表示されます。



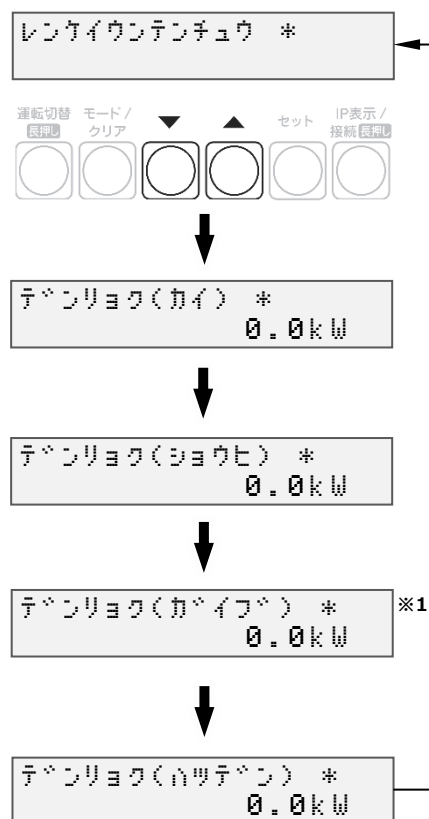
# 瞬時値確認を実施する

計測ユニットを操作して、現在のシステムの発電量を確認できます。

## 1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、▼/▲ボタンを押して、瞬時値を確認する。

- 計測ユニットの表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、運転状態を表示させてから、▼/▲ボタンを操作してください。

※1 初期設定で「ガイブハツデン >アリ」で設定した場合に表示されます。ナシの場合には、該当の項目は表示されません。



# 有線接続の設定

計測ユニットとルータ間は、LAN ケーブルで有線接続することも可能です。電波強度が低いことが原因で、W-Fi ルータ(固定回線用)、もしくは 3G ルータ(3G 回線セット)と計測ユニットとの間の無線通信が行えない場合は、以下の手順で有線接続してください。

無線接続で使用する場合や接続方法が分からない場合は、設定を行わないでください。

## ●計測ユニットの設定を変更する

計測ユニット-ルータ間の通信を「無線接続(STA モード)」から「有線接続(AP モード)」に変更します。

- 1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、計測ユニットのモード/クリアボタンと IP 表示/接続ボタンを同時に2秒以上押し続ける



- 2 「ムセンモードキリカエ >STA」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「AP」を選択しセットボタンを押す



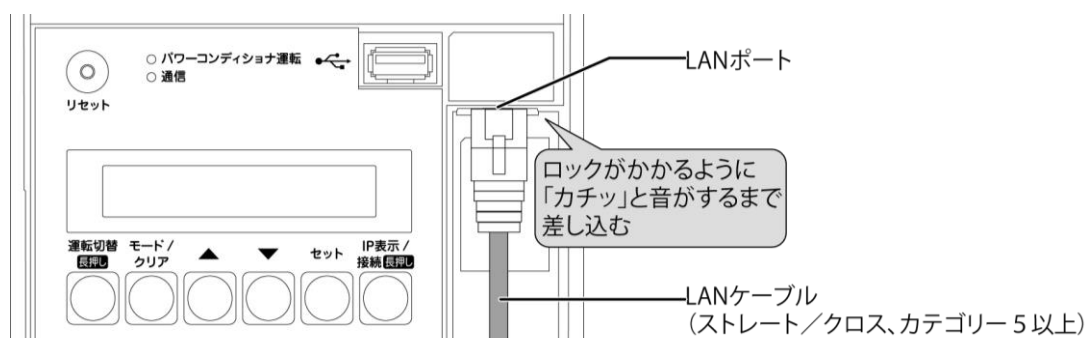
- 3 「ムセンモードキリカエ AP >ジッコウシマスカ? No」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「Yes」を選択しセットボタンを押す



## ●LAN ケーブルを配線する

- 1 計測ユニットにLANケーブルをつなぐ

- LAN ポートに接続してください。



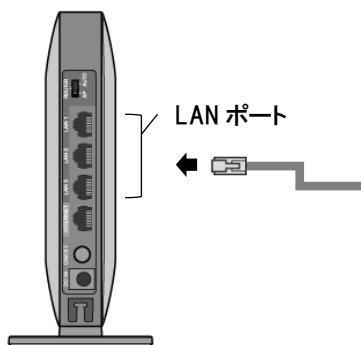
- LAN ポートに PCS 間通信ケーブル (別売) を接続しないでください。

## 有線接続の設定 (つづき)

### 2 ルーターにLANケーブルをつなぐ

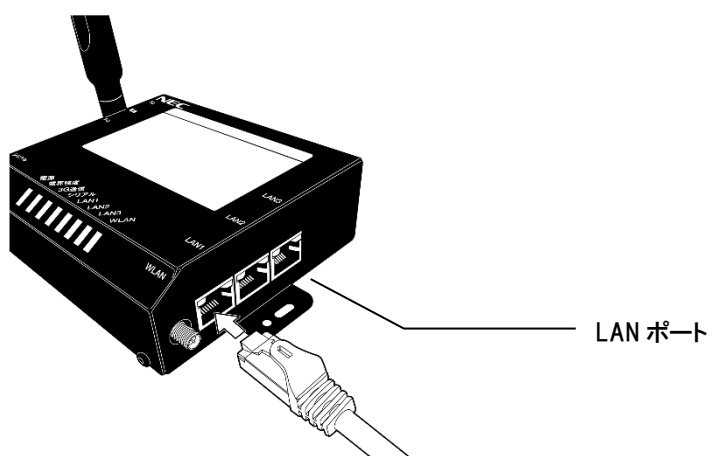
(固定回線用の場合)

- Wi-Fi ルーター背面の LAN ポートに接続してください。  
LAN 1 ~ 3 いずれかに接続してください。



(3G 回線セットの場合)

- 3G ルーター側面の LAN ポートに接続してください。  
LAN 1 ~ 3 いずれかに接続してください。



# 無線接続の設定（固定回線用）

出荷時には、計測ユニットと Wi-Fi ルータ間で無線通信を行うよう設定しております。  
お客様にて Wi-Fi ルータの無線接続の設定変更をされた場合には、再度無線接続の設定が必要となります。  
その際は、以下の手順で無線接続設定を行ってください。

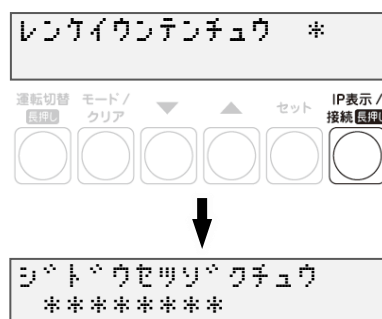
接続方法が分からない場合には、設定を行わないでください。

## ●かんたん無線接続設定を行う

計測ユニット - Wi-Fi ルータ間の無線接続設定を行います。

### 1 Wi-Fi ルータのワイヤレスランプが点滅するまで(約1秒間) AOSSボタンを押す

### 2 計測ユニットのIP表示/接続ボタンを、 表示部に「ジドウセツゾクチュウ」 と表示されるまで押し続ける

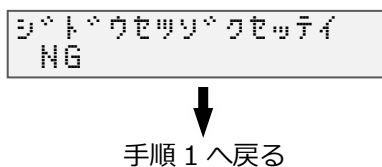


### 3 接続設定がOKであることを確認する

- OK を確認後、モード/クリアボタンを 1 回押して、メイン画面に戻ってください。



- 接続設定が失敗した場合、NG が表示されます。モード/クリアボタンを押して、手順 1 から再度設定してください。



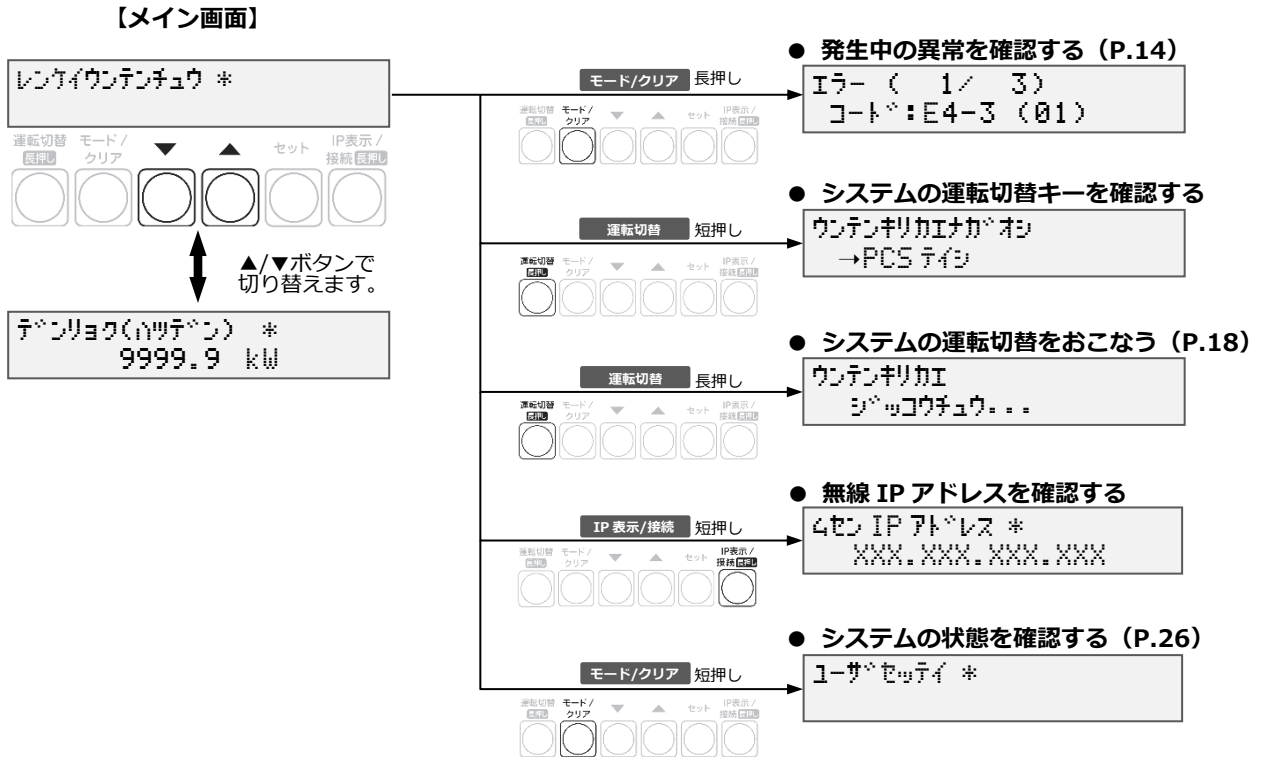
### 4 通信確認を実施する (P.16~17)



# その他

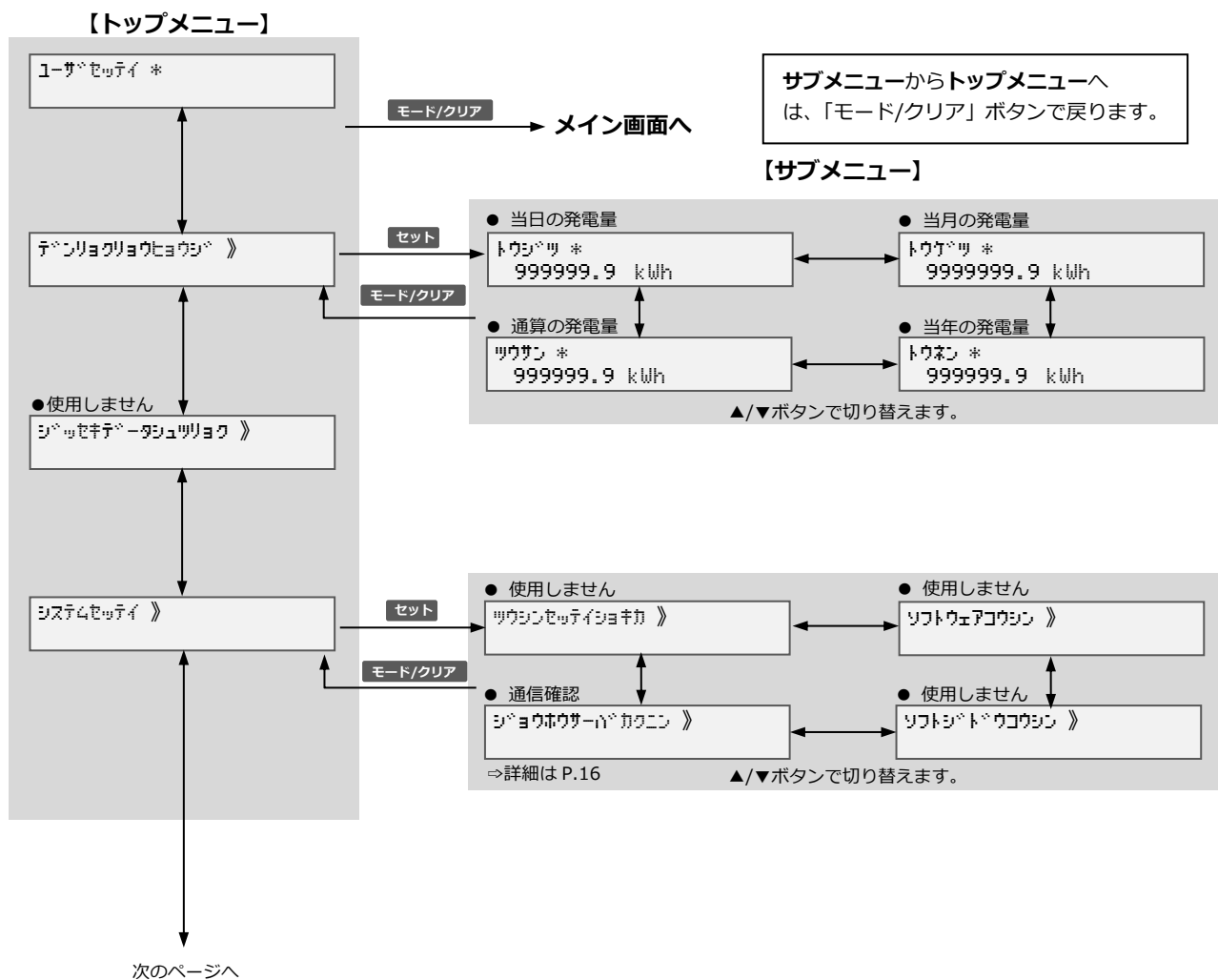
## メニュー遷移

### メニュー遷移図



# メニュー遷移(つづき)

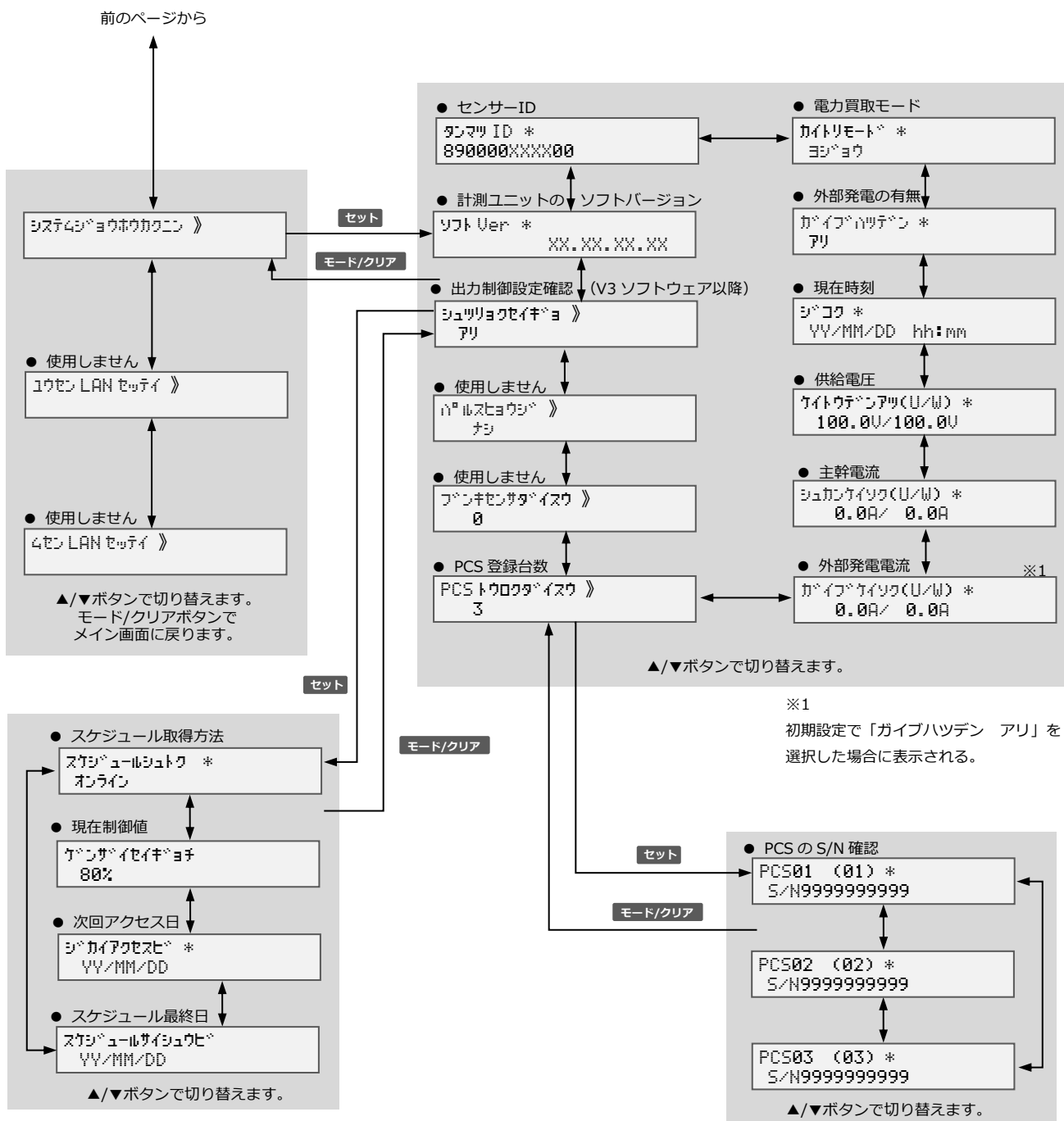
## ユーザ設定 メニュー遷移図



# メニュー遷移(つづき)

## ユーザ設定 メニュー遷移図

【トップメニュー】



# エラーコード一覧

## パワーコンディショナに関するエラーコード

- 発生したエラーに対する処置については、各パワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

エラーコード	画面表示	エラー内容	事象
A1-5	A1-5.0	自立運転過負荷状態	自立運転中に電気の使いすぎ、または使用中の電気製品の故障を検出しています。
A2-7	A2-7.0	内部ファン異常	パワーコンディショナが内部ファンの異常を検知しました。
E1-1	E1-1.0	交流過電圧検出	商用系統の異常により交流過電圧を検出しました。
E1-2	E1-2.0	交流不足電圧検出	商用系統の異常により交流不足電圧を検出しました。
E1-3	E1-3.0	周波数上昇検出	商用系統の異常により周波数上昇を検出しました。
E1-4	E1-4.0	周波数低下検出	商用系統の異常により周波数低下を検出しました。
E1-5	E1-5.0	単独運転検出 (受動的方式)	商用系統の周波数に異常が発生し、単独運転検出(受動的方式)が働きました。
E1-6	E1-6.0	単独運転検出 (能動的方式)	商用系統の周波数に異常が発生し、単独運転検出(能動的方式)が働きました。
E1-7	E1-7.0	瞬時過電圧検出	商用系統の電圧が 123V 以上になっています。
E1-8	E1-8.0	瞬時電圧低下検出	商用系統の電圧が 15V 以下になっています。交流側のヒューズが切れている可能性があります。
E2-1	E2-1.0	太陽電池過電圧検出	太陽電池の電圧が高くなっています。
E2-3	E2-3.0	直流地絡検出	太陽電池側の機器の絶縁抵抗が低下しています。
E3-1	E3-1.0	直流過電流検出	直流過電流検出によりパワーコンディショナを再起動しました。 パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E3-2	E3-2.0	交流過電流検出	
E3-3	E3-3.0	直流分検出	
E3-4	E3-4.0	装置温度異常	パワーコンディショナ内部が高温になっています。
E4-2	E4-2.0	特性異常	特性異常によりパワーコンディショナを再起動しました。
E4-3	E4-3.0	出力制御異常	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E4-4	E4-4.0	ROMバージョン異常	パワーコンディショナがROMバージョン異常を検出しました。
E4-5	E4-5.0	制御電源異常	制御電源異常によりパワーコンディショナを再起動しました。
E4-6	E4-6.0	EEPROM Sum値異常	パワーコンディショナの自己診断異常を検出しました。
E4-7	E4-7.0	EEPROM 異常	
E4-8	E4-8.0	装置未校正	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E5-1	E5-1.0	連系リレー動作異常 / 端子台温度異常	パワーコンディショナがリレー動作異常を検知しました。
E5-3	E5-3.0	DC/DCコン 過電圧検出	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E5-4	E5-4.0	DC/DCコン 不足電圧検出	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E5-5	E5-5.0	地絡センサ断線	パワーコンディショナが地絡センサ断線を検出しました。
E5-6	E5-6.0	過電流検出	過電流検出によりパワーコンディショナを再起動しました。

# エラーコード一覧(つづき)

## 計測ユニットに関するエラーコード

エラーコード	画面表示	エラー内容	事象
C1-1	C1-1.0	時刻異常動作停止	自動復旧する可能性があります。1日に複数回発生している場合は、ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C1-2	C1-2.0	時刻同期異常	
C1-3	C1-3.0	パワーコンディショナ動作モード不一致	(パワーコンディショナが複数台設置されている場合のみ) いずれかの太陽光発電用ブレーカがオフになっている可能性があります。太陽光発電用ブレーカの状態を確認して、太陽光発電用ブレーカをすべてオンにしてください。その後、パワーコンディショナ本体の運転スイッチを入れ直してオンにしてください。エラーが解消されない場合は、太陽光発電用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C1-4	C1-4.0	パワーコンディショナ台数不一致	パワーコンディショナの設置台数が設定値と一致していません。 パワーコンディショナの設置台数および通信ケーブルが正しく配線されているか確認してください。 設置台数の設定変更が必要な場合は施工・取扱説明書をご確認ください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットもしくは通信ケーブルの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C1-5	C1-5.0	パワーコンディショナ出力制御非対応	接続されているパワーコンディショナが出力制御に対応していません。パワーコンディショナの型式とソフトウェアバージョンを確認し、出力制御に対応している環境へ変更してください。エラーが解消されない場合は、太陽光発電用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-1	C2-1.0	EEPROM 異常	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-2	C2-2.0	FLASH メモリ異常	
C2-3	C2-3.0	FLASH メモリ寿命	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-5	C2-5.0	Web サーバ異常	自動復旧する可能性があります。数日に渡って継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-7	C2-7.0	動作保証期間外異常	本製品は、2038年以降は使用できません。現在2038年以降でない場合は、計測ユニットを再起動し、計測ユニットの時刻が現在時刻であることを確認してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-8	C2-8.0	オーバーフロー通知	発電実績データが上限値に達しました。自動復旧する可能性があります。連日発生している場合は、時刻異常の可能性があります。ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-1	C3-1.0	ソフトウェア更新異常	ソフトウェア更新に失敗しました。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-3	C3-3.0	システム異常	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-4	C3-4.0	無線 LAN 異常	自動復旧する可能性があります。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-5	C3-5.0	時計異常 (ドライバレベル)	ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。

## エラーコード一覧(つづき)

エラーコード	画面表示	エラー内容	事象
C3-6	C3-6.0	設定データ不正	ソフトウェア更新に失敗しました。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-7	C3-7.0	ソフトウェアバージョン不正	
C3-8	C3-8.0	ソフトウェア更新異常 (パワーコンディショナ)	パワーコンディショナのソフトウェア更新に失敗しました。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-9	C3-9.0	パワーコンディショナROM 異常	
C3-A	C3-A.0	出力制御スケジュール異常	電力会社から受信する制御スケジュール値が異常です。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-B	C3-B.0	出力制御スケジュールなし	自動復帰する可能性がありますが、継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C4-1	C4-1.0	内部通信エラー (データ通信)	自動復帰する可能性がありますが、1日に複数回発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C4-2	C4-2.0	内部通信エラー (UI 通信)	
C4-3	C4-3.0	内部通信エラー (起動時タイムアウト)	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C4-4	C4-4.0	内部通信エラー (起動時異常応答)	
C5-1	C5-1.0	系統過電圧	計測ユニットの電源電圧に異常があります。 自動復帰する可能性がありますが、連日発生する場合は、計測ユニットの電源ケーブルが正しく配線されているか確認してください。 問題がない場合は、計測ユニット本体の「ユーザ設定」メニューで「システム情報確認」の「系統電圧」を確認してください。 配線を修正した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C5-2	C5-2.0	系統過電流	主幹用電流センサの設置位置を確認してください。 設置位置を修正した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C5-3	C5-3.0	系統不足電圧	計測ユニットの電源電圧に異常があります。 自動復帰する可能性がありますが、連日発生する場合は、電圧検知ケーブルが正しく配線されているか確認してください。 問題がない場合は、計測ユニット本体の「ユーザ設定」メニューで「システム情報確認」の「系統電圧」を確認してください。 配線を修正した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。

# エラーコード一覧(つづき)

エラーコード	画面表示	エラー内容	事象
C5-4	C5-4.0	外部発電センサ過電流	<p>▶「<u>ガイクハツデン アリ</u>」で設定している場合 外部発電機用電流センサが正しく設置されているか確認してください。 また、設置状況を変更した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p> <p>▶「<u>ガイクハツデン ナシ</u>」で設定している場合 使用しない外部発電機用電流センサが設置されている可能性があります。 設置されている場合は取り外してご使用ください。 設置されていない場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C5-5	C5-5.0	分岐計測センサ過電流	<p>使用しない分岐用電流センサが設置されている可能性があります。 設置されている場合は取り外してご使用ください。 分岐用電流センサが設置されていない場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C6-1	C6-1.0	時刻設定異常	<p>ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C6-2	C6-2.0	CPUシステムエラー	<p>計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C6-3	C6-3.0	サブCPU通信エラー	
C6-4	C6-4.0	サブCPU FLASHメモリ異常	
C6-5	C6-5.0	WDT異常	<p>計測部が異常状態となったため、再起動しました。継続して発生している場合には、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C6-6	C6-6.0	運転切替エラー	<p>計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押して、パワーコンディショナの運転切替を実施してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C6-7	C6-7.0	サブCPU EEPROM異常	<p>計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C6-8	C6-8.0	出力制御エラー	
C7-3	C7-3.0	ソフト更新サーバ通信システムエラー	
C7-6	C7-6.0	情報サーバ通信システムエラー	
C7-A	C7-A.0	電力サーバ通信システムエラー	

## 販売元



**NTT SMILE ENERGY**

**株式会社 NTT スマイルエナジー**

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 2 丁目 6 番 18 号 淀屋橋スクエア 4F

**06-6221-1234**

お問い合わせ [support@nttse.com](mailto:support@nttse.com)

エコめがねに関する  
ご質問・ご相談は…

お客様  
サポート  
センター

通話料  
無料

**0800-200-4455**

受付時間

**10:00~19:00**

携帯電話・PHSからも無料でご利用いただけます。  
平日17:00以降、土日祝のお問合せにつきましては、一次受付窓口でののご案内となり、  
ご回答は翌日以降になる場合がございます。